

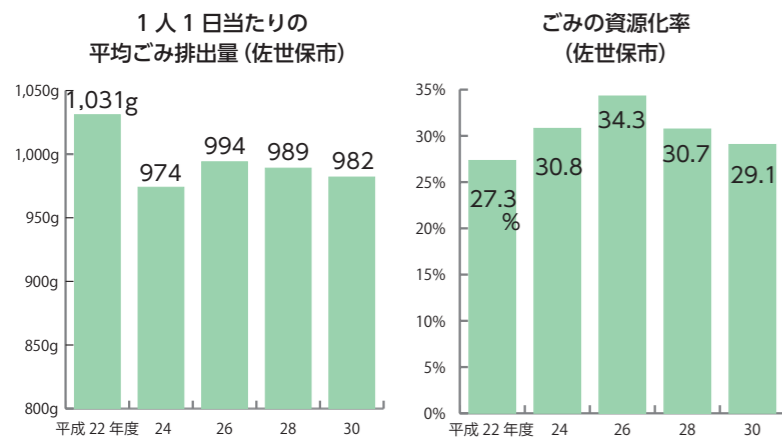
「ごみを資源化する意識」を高めましょう！

本市では、多様化し増大するごみの減量やリサイクルなどに的確に対応していくため、平成5年から5分別(可燃・不燃・廃乾電池・粗大ごみ・資源物)収集を開始しました。その後、ペットボトル・古紙類・小型家電10品目を資源物に分類するなどして、現在までに4種15分別へ細分化しました。また、ごみの減量化・資源化の取り組みを促進するため、平成15年には「粗大ごみ戸別有料収集制度」を、平成17年には「家庭ごみの2段階有料化制度」(平成21年に一部見直し)と、粗大ごみとして回収したもののうち再使用が可能なものをさせばエコプラザ(戸尾町)で修理・販売する事業を開始しました。

平成30年度には本市の環境の現状や課題などを踏まえて「佐世保市環境基本計画2018～2027年度」を策定し、市民の皆さんや事業者、関係団体、行政などがそれぞれ、または協働で、良好な環境の保全等に関する施策を総合的に推進することとしています。

これら事業の推進と市民の皆さんの協力により「1人1日当たりの平均ごみ排出量」は、平成22年度の1,031gから30年度には982gに減少しました。

しかし、「ごみの資源化率」は平成22年度から26年度までは増加しているものの、以降は減少しています。集められたごみの中には再利用できるものがまだ数多く見受けられたり、誤った分別・排出方法により資源化できなかったりするものも多くあり、「自然と共に生きるまちさせば」を実現するためには、市民の皆さん一人一人がさらに意識を高め、徹底した分別に取り組むことが必要です。市民の皆さんのさらなるご理解とご協力をお願いします。



食品ロスを減らしましょう

開始後30分と終了前10分は料理を楽しむ3010運動!

まだ食べられる食品の廃棄「食品ロス」は、日本では年間約643万トンと推計されています。これは、世界の年間食糧援助量の約2倍で、日本人が1人1日当たりお茶碗約1杯分の食べ物を毎日捨てている計算になります。日本は食料の多くを輸入に頼っている一方で、大量に捨てています。

食品ロスの半分は家庭からといわれています。食品ロスを減らすため、下記のことにご注意してみましょう。

- 食材は「買い過ぎない」「使い切る」「食べ切る」「必要なものだけを買う」
- 残った食材や料理を他の料理に活用する
- 「賞味期限」(おいしく食べられる期限)が過ぎたからといって、すぐに捨てず、「消費期限」(過ぎたら食べない方がよい期限)との違いを理解して可能なものは消費する

また、飲食店から出る食品ロスの半分以上がお客の食べ残しで、宴会などでも10%以上の食べ残しがあるといわれているため、開始後30分と終了前10分は自席で料理を楽しむ「3010運動」で食品ロスを減らしましょう。

食品ロス協力店へポスター等を配布予定です「3010運動を推奨する」「食事量調整のため小盛りや小分けのメニューが充実している」など、食品ロス削減に協力していただける飲食店へポスターとステッカーを配布する予定です。詳しくは廃棄物減量推進課(☎32-2428)にお尋ねください。



特集 一人一人が環境保全の意識を持って

循環型社会のために私たちができる取り組み



再生利用するために西部クリーンセンターでプレスされた空き缶

生活の便利さや快適さを求めて発展してきた現代社会。確かに以前と比較すると大変便利な社会になりましたが、その一方で私たちの身の周りに多くの「モノ」があふれているのも事実です。本市では、市民の皆さんに協力していただき、ごみ排出量は少しずつ減少傾向にあります。それでも再利用が可能なモノも多くあります。今回の特集では、皆さんにそうしたことを今一度考えていただき、循環型社会の実現に役立てていただくため、本市のごみの資源化の状況や取り組み、4月から本格稼働を予定している西部クリーンセンター(新施設)の概要などについてお知らせします。



一人一人が環境保全を意識して 自分でできる取り組みを

だいやエコクラブ 黒田 美也 さん

こどもエコクラブ

3歳から高校生までが参加できる環境活動のクラブで、全国 1,831 クラブ、約 10 万人 (令和元年 11 月末現在) が活動しています。

だいやエコクラブ

本市のこどもエコクラブの一つで、平成 29 年に結成。川の水質・生物調査や道路・海岸の清掃などを通して環境問題について学ぶ活動をしています。

こどもエコクラブのだいやエコクラブで環境について学び、さまざまな活動に励む黒田美也さんに話を伺いました。

環境のことを楽しく学ぶ エコツアーなどを開催しています

私が家族と一緒に「だいやエコクラブ」の取り組みを始めたのは小学 4 年生の時、夏休みの自由研究のために「させばエコプラザ」に行き、そこで「こどもエコクラブ」のことを知ったのがきっかけでした。以前から生き物や自然のことが好きでしたが、クラブで川の水質・生き物調査や道路アダプトプログラム (市民と行政が協働で進める清掃活動などのまち美化プログラム) による市道の花の植栽・清掃、みどりのカーテンの栽培などに取り組むことで、環境のことをより深く知ることができました。

周りの人たちにも環境のことについて興味を持ってほしいと思い、市内のさまざまな場所に伺い、その地域の環境問題などを学ぶツアーを企画・運営する「こどもツーリズム・エコ株式会社」という取り組みも平成 30 年 6 月から始めました。

昨年 8 月に黒島で開催したエコツアーには 25 人に参加していただき、海岸清掃や地元の方々と協力して作る地産地消の料理会、環境学習会などを行いました。また、地元の漁師さんや町内会の方々に協力していただき、釣りを行ったのですが、環境のことを学んだ上で釣りをすることで、参加者の皆さんに自然の恵みのありがたさや海洋プラスチックなど、ごみの問題について改めて考えてもらうことができたと思います。

他のエコツアーでは金属のリサイクル会社の協力により開催した学習会や、九十九島ビジターセンターの協力により開催した海の漂着物について学びながら行う工作会など、参加者が楽しみながら環境について学べるような内容を開催しています。



黒島の海岸に漂着したごみの清掃活動の様子

一人一人の小さな行動が 自然に大きな影響を及ぼします

私たちは便利で快適な生活を送ることができていますが、そこには環境への負荷が少なからずあるものです。クラブでは、自然環境を保全し、持続可能な地域づくりを目指して、定期的な地域の清掃・美化活動やエコツアーなどを行っています。しかし、このクラブ活動に関わらず、小さなことでも、多くの人が毎日、環境保全を考えた行動を取ることができれば、負荷を抑える力は大きなものになります。使わない電気はこまめに消すことや、食器を洗う前に油・汚れを古紙等で拭いてから洗うことなど、生活の中でできることはたくさんありますので、少しずつでも一人一人が環境保全を意識した行動を取っていただきたいと思います。

今後とも多くの皆さんに、環境を守る考えや行動が広がっていくよう、引き続き、さまざまなことに取り組んでいきたいと思っています。

(取材日 11 月 13 日)

させばエコプラザをご利用ください

本市の環境市民育成と地球温暖化防止対策推進の拠点「させばエコプラザ」では、環境に関することを楽しみながら学ぶことができる取り組みを行っています。お気軽にお越しください。

環境イベント・講座

年に一度の佐世保の環境交流イベント「エコライフフェス」、月に一度の不要になったものを誰かの必要なものに変える「ふくくる市」、人気で定番の「エコクッキング教室」「リサイクル工房」「苔テラリウム講座」など

出前講座

市内小・中学校で行う地球の未来と私たちの生活のつながりを学ぶ講座や地域の企業等を訪問して行う学校でのエコ活動をより高める支援メニューなど

リユース家具販売

粗大ごみとして出された家具を修理・再生し、安価での販売
※各項目の開催日時や参加方法など、詳しくはお尋ねください。



エコフェス (写真上) とリサイクル工房 (下)

させばエコプラザ ☎ 25-0055

戸尾町 5-1 (旧戸尾小学校 1 階)

開館日時 火曜～土曜 9 時～ 18 時

※ 12 月 29 日～ 1 月 3 日を除く。

4R に取り組みましょう

一人一人が毎日の生活の中で、できることから少しずつ実践していくことが重要です。

Refuse (リフューズ・断る)

- ・マイバックを持参し、レジ袋をもらわない
- ・過剰な包装は断る

Reduce (リデュース・減らす)

- ・長く使えるものや詰め替えの商品を選ぶ

Reuse (リユース・再使用)

- ・着なくなった衣服や不要になった家具などはフリーマーケットに出す、欲しい人に譲る

Recycle (リサイクル・再生利用)

- ・古紙や空き缶、ペットボトルなど資源になるものは資源物として排出する

佐世保の環境のことなどを
ツイッターでつぶやいている
ダストンくん



リチウムイオン電池の 適切な処理・回収にご協力を

スマートフォンやモバイルバッテリー、加熱式たばこなどに使用されているリチウムイオン電池は可燃性の電解液を含んでおり、バッテリーが割れた場合などに発火する恐れがあります。市での回収は行っておらず、誤った持ち込みによりクリーンセンターで発火する事故が起きており大変危険です。処分の際は家電量販店などの回収ボックスの利用や、購入した店舗への相談をお願いします。





佐世保の文化に親しむ月間「させば文化マンス」。11月16日、17日には、メインプログラム「楽園祭」が開催されました。

会場となったアルカス SASEBO には、音楽やダンス、書道、アートなど、佐世保文化を体感できるイベントが数多く催され、屋外の蚤の市などと共に、2日間とも多くの人出でにぎわいました。

16日には、市民の合唱を愛好する有志と一般公募による団員約200人が佐世保市民管弦楽団と共にベートーベン「第九」と「西海讃歌」を披露。迫力ある圧巻の演

奏が終了すると観客から「ブラボー」の大きな声が掛けられました。

17日には、本紙11月号の表紙を飾った「東浜町一組女相撲保存会」の皆さんが白い肌着に勇壮な化粧まわし姿で登場。三味線や太鼓、鐘の音に合わせて踊ったり、土俵で取組を披露したりして、観衆から大きな拍手が送られました。

2日間で20以上の多彩なイベントが開催された今回の楽園祭。年齢やジャンルを超えた佐世保らしい文化祭となりました。

- 1 ベートーベン「第九」& 團伊玖磨「西海讃歌」演奏会 2 東浜町一組女相撲 3 みんなでつくる子どもコンサート 4 インフルエンサーが「映える技術」を教えます 5 アリゴ座特別公演 in 佐世保 6 高校生書道パフォーマンス 7 歌いっぱいの人形劇 8 ダンスフェスティバル Space 9 ビブリオバトル 2019 in SASEBO

文化振興課 ☎ 24-1111

西部クリーンセンター（新施設）の 供用を4月から開始します

昭和52年から約40年稼働し、老朽化が進行していた現在の西部クリーンセンターが3月末にその役目を終え、西部クリーンセンターの新施設がいよいよ4月から供用開始となります。現在の敷地の北西部に建設している新施設は、市民の皆さまのごみの減量化・資源化へのご協力により市全体のごみ量が減少したため、焼却能力が現在の施設の半分程度となります。施設には燃やせるごみを処理する「高効率ごみ発電施設」と、燃やせないごみや資源物を処理する「マテリアルリサイクル推進施設」が一つの建物に併設されます。

ごみを焼却する際に発生するガスを処理するためには、煙突から出るガスの温度を冷やす必要があります。そのため旧施設では大量の水をまき、大気に放出していましたが、新施設ではガスでお湯を沸かし、その蒸気でタービンを回して発電することができ、また、その蒸気は冷やして再び水に戻し再利用することから上水の使用量がこれまでの1/3以下に抑えられるなど環境に配慮した施設となります。

最新の技術を活用し、循環型社会にふさわしいごみ処理・資源化システムを構築していきますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

西部クリーンセンター（新施設）概要

工期 平成24年度 建替を表明
平成25年度～ 基本計画、環境影響評価など
平成28年度～ 施設設計・建設工事
令和2年度 本格稼働

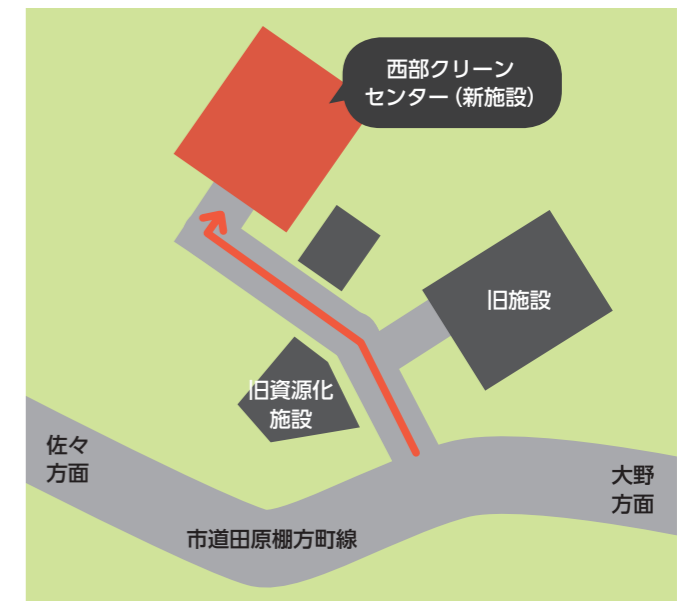
ごみ処理量 110ト/日（旧施設240ト/日）
上水使用量 約60ト/日（旧施設約200ト/日）
発電能力 2,420kw（旧施設には無し）

マテリアルリサイクル推進施設

破碎選別能力 14ト/5時間（旧施設50ト/5時間）
缶類選別圧縮能力 1.0ト/5時間（旧施設1.3ト/5時間）



西部クリーンセンター（新施設）へのごみ持ち込みルート



西部クリーンセンター ☎ 47-5292

住所 下本山町 294-2

受付 月～土曜 8時30分～17時（市が指定する休日を除く）
※ごみの持ち込み方法はこれまでと変わりません。詳しくはごみ収集カレンダーをご覧ください。

特集に関する問い合わせ 環境政策課 ☎ 31-6520